

下野市【栃木県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
下野市観光協会／株式会社道の
駅しもつけ／下野薬師寺ボラン
ティアの会／児山城址守り隊
下野市文化財保護審議会／下野
市小中学校長会／下野市の関係
部局

■構想策定年度…
平成二十八年一月
■補助事業期間…
平成二十九年九月一日
平成三十年三月三十一日

歴史文化基本構想の概要

下野市は栃木県内で最小の市だが、500以上の遺跡と106の指定文化財が存在している。これらは、当地が各時代を超え「北・南と東・西を結ぶ一大交通拠点」として、ヒトとモノの流れがあったことを示している。そこで、古代から近世までの交流や交通を主眼として、各時代ごとに関連文化財群を設定し、これらの文化財の保存活用を推進している。

観光拠点形成の方向性

- ・文化財の保存・活用を前提とした歴史まちづくりの推進
- ・「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を図る

観光に関する課題

- ・各史跡等での個々の取組みはあるが連携した取組みがない
- ・観光客が周遊して文化財を見学することが少ない
- ・市内全域を案内するガイドの不足

事業概要

VRにより古墳を復元

市内には首長墓である大型の古墳が点在するが、消滅した古墳もあることから、一部地域のみに見学者が訪れていた。そのため、市内に広く分布する各古墳に見学者が訪れるきっかけとなるよう、消滅した古墳も含めてVRにより8基の古墳の復元を行った。

■KPI 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(H31)

情報
発信



文化財周遊アプリの導入

観光客が市内の文化財を周遊して見学することが少ないことから、古墳復元VRを活用して、市内の古墳への周遊を促すためのアプリを導入した。見学者が利用しやすいよう、古墳に関連する文化財や休憩場所等の周辺スポットについても表示した。

■KPI 資料館等入館者数：27,000人(H28)⇒32,000人(H31)

情報
発信



文化財観光ガイド養成講座を実施

特定の史跡を対象としたガイド組織は存在するが、市内全域の文化財を対象としたガイドがないため、市内の文化財を網羅的にガイドできるよう、ガイドの養成講座を実施した。講座は受講生が自主性を持てるよう、講座形式のみでなくワークショップ形式でも実施した。

■KPI 観光文化財ガイド登録者数：0人(H28) ⇒30人(H31)

人材
育成



歴史文化遺産カードで事業を発信

「東の飛鳥」として文化財の広域的な活用を発信するために、資料館来訪者向けに歴史文化遺産カードを作成した。古墳復元VR画像を活用し、裏面には、文化財周遊アプリの利用を促すようQRコードを掲載し、市内の古墳の見学のため市内を周遊できるようにした。

■KPI 文化財関連イベント参加者数：2,000人(H28) ⇒3,000人(H31)

普及
啓発



成果

① 古墳等の見学者の増加

過去に制作した下野薬師寺の復元VRアプリとともに、古墳復元VRの公開により、古墳等の文化財の見学者が増加した。アプリのガイド機能により、市内の文化財を巡る人も見られるようになった。

② 文化財への関心の高まり

文化財観光ガイド養成講座を実施したところ、定員を上回る市民等が参加した。講座実施後もガイドとして活動を継続する方が20名程度おり、今後継続して講座を実施することにより、多くの方の参加が見込まれる。